AgileWorks R3

設定データ移行ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 環境間設定データ移行の概要 5
1.1. 移行方法について 5
方法 1 : 個々の設定データを選択して移行 5
方法 2 : ステージングの同期化・デプロイ機能による一括移行 5
2. 選択移行方法 6
2.1. 設定データ間の依存関係について 6
2.2. 制限事項 7
2.3. フォーム・回付ルール選択移行の流れ 8
2.4. 外部マスタ(標準)の移行 9
2.5. 外部マスタ(拡張)の移行 9
外部マスタ(拡張)のエクスポート・インポート 9
外部マスタ(拡張)を利用しているマスタデータの確認 9
2.6. マスタデータの移行 10
マスタデータのエクスポート 10
マスタデータのインポート 10
利用コンポーネントの確認 10
2.7. マスタ参照コンポーネントの移行 11
マスタ参照コンポーネントのエクスポート 11
マスタ参照コンポーネントのインポート 11
利用フォーム・フィールドの確認 11
2.8. 自動採番コンポーネントの移行 12
自動採番コンポーネントのエクスポート 12
自動採番コンポーネントのインポート 12
利用ルール・ステップの確認 12
2.9. 公開フォーム関連データの移行 13
公開フォーム関連データの移行対象 13
公開フォーム関連データのエクスポート 14
公開フォーム関連データのインポート 16
3. ステージング機能による一括移行方法 18
3.1. ステージング機能の概要 18
3.2. ステージング機能の用語説明 19
3.3. ステージング環境の構築 19
ライセンス 19
インストール後の起動モード切替方法 19
3.4. 移行の流れ 20
3.5. 移行対象一覧 21
3.6. 運用環境との相違点 23
画面の違い 23
機能の違い 23
3.7. ステージング環境で初めに行うこと 24
3.8. 同期化 25
同期化前に行うこと 25
基準日の設定 26
同期化の実行 26
同期化実行ログの確認 27
同期化後に行うこと 28
ユーザーのパスワード変更 29
同期化後の注意点 29
3.9. デプロイ 30
デプロイ前に行うこと 30
デプロイ実行モード 31
基準日の設定 32
デプロイの実行 32
デプロイ実行ログの確認 33
デプロイ後に行うこと 34
3.10. 注意事項 35
移行動作について 35
移行に関する注意 35
運用に関する注意 35
3.11. 同期化／デプロイ実行後ログの確認 35
同期化の拡張情報 35
デプロイの拡張情報 36
3.12. ステージング機能の FAQ 36
ステージングから運用、運用からステージングへ差分でデータ移行をしたい 36
運用環境とステージング環境の構成は同一である必要がありますか？ 36
3.13. 同期化時のトラブルシューティング 37
3.14. デプロイ時のトラブルシューティング 37
4. ログ・ファイルフォーマット 38
4.1. report_export/summary.csv 38

4.2. report_import/summary.csv 38
4.3. detail.csv 38
4.4. untreated.csv 39
4.5. errors.csv 39

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 環境間設定データ移行の概要

本書では、複数の AgileWorks 環境間で設定データを移行する方法について説明します。
※　本書で示す設定データとは、管理サイトの各種設定データを示します。
　　ユーザーサイトから登録される書類・ワークフロー・個人設定データは対象外です。

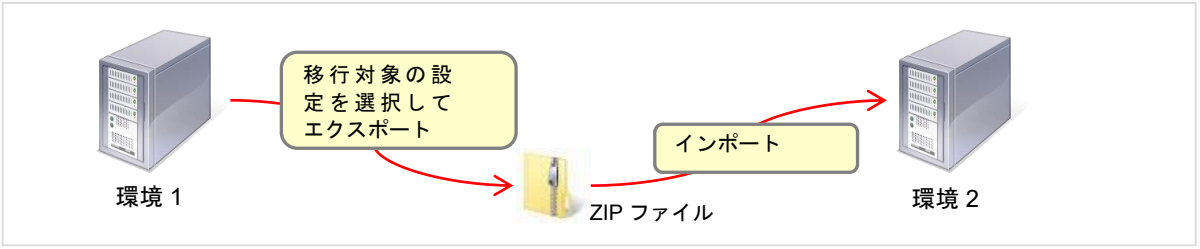
1.1.　移行方法について

設定データの移行方法は、大きく分けて 2 つの方法があります。
[方法 1]: 設定データを個別に選択して移行する
[方法 2]: ステージングの同期化・デプロイ機能を利用して一括で移行する

▼ 方法別の特徴比較

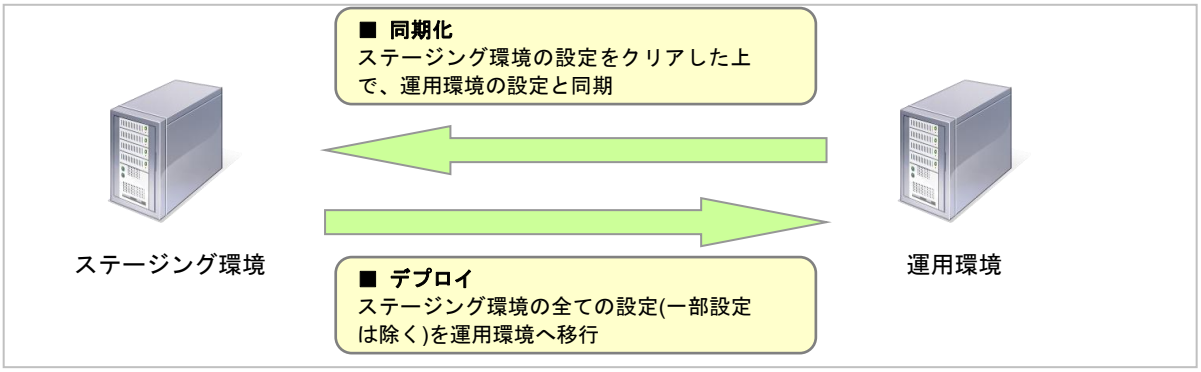
比較項目	方法 1 選択移行	方法 2 ステージング機能での一括移行
環境間における HTTP 通信の必要性	無し	有り
移行対象の選択移行	可能	不可能
移行対象の一括移行	不可能	可能 ※但し、一部設定は移行対象外
移行中の AgileWorks 利用	可	不可
移行時間	方法 2 に比べて短い	方法 1 に比べて長い

方法1： 個々の設定データを選択して移行



フォームや回付ルールのリリースを段階的に行う場合、異なるネットワーク環境の AgileWorks で設定したデータを移行する場合に適した方法です。
この方法の詳しい説明は「選択移行方法」章を確認してください。

方法2： ステージングの同期化・デプロイ機能による一括移行



大幅な組織改定、会社の吸収・合併、決裁規定の変更など、全設定データを変更する必要がある場合や、初期運用前にステージング環境で設定した全データを一括移行する際に適した方法です。
この方法の詳しい説明は「ステージング機能による一括移行」章を確認してください。

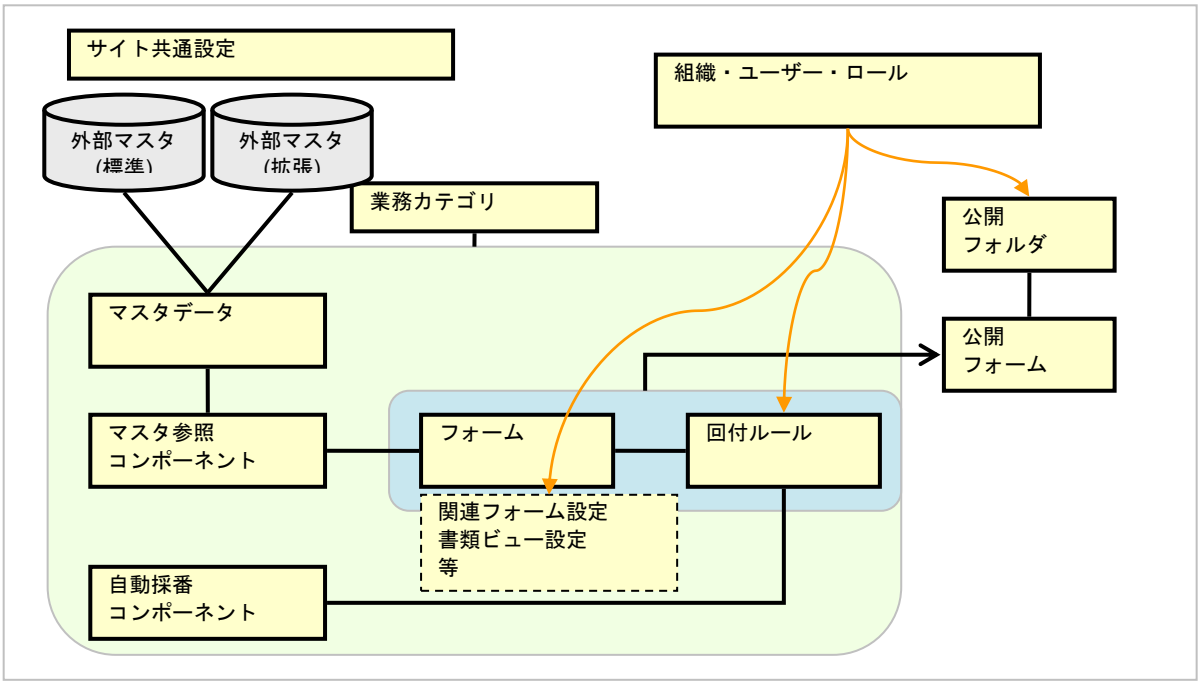
2. 選択移行方法

本章では、個々の設定データを選択して移行する方法について説明します。

2.1. 設定データ間の依存関係について

AgileWorks の各種設定データは、設定データ間が密接に関連・依存しているため、ある設定データを移行するには、その依存関係にあたる設定データを事前に移行しておく必要があります。
以下に主な設定データの依存関連図を示します。

▼ 主な設定データ間の依存関連図



▼ 主な設定データー覧と、依存する設定データ

カテゴリ	設定内容	依存する設定
サイト共通	業務カテゴリ設定	特に依存関係はありません。
	メールテンプレート設定	
	共通一覧ビュー設定	
	外部マスタ	
	その他サイト共通設定	
組織関連	組織・ユーザー・ロール	
マスタデータ	マスタデータ設定	業務カテゴリ 外部マスタ(標準) 外部マスタ(拡張)
コンポーネント	自動採番コンポーネント	業務カテゴリ
	マスタ参照コンポーネント	業務カテゴリ マスタデータ
フォーム	フォーム	業務カテゴリ マスタ参照コンポーネント
	関連フォーム設定	フォーム
	書類ビュー設定	フォーム 組織関連設定（アクセス権限を指定する場合）
回付ルール	回付ルール	業務カテゴリ 組織関連設定 フォーム 自動採番コンポーネント
公開フォルダ	公開フォルダ	組織関連設定（アクセス権限を指定する場合）

	公開フォーム	公開フォルダ フォーム 回付ルール

依存関係の例 1: 回付ルールを移行する場合の依存関係

- 回付ルールは、業務カテゴリに所属している為、業務カテゴリは回付ルール移行前に移行先へ設定しておく必要があります。
- 回付ルールのステップ処理者設定では、組織やロールが設定されている為、設定されている組織・ロールなどは回付ルール移行前に移行先へ設定しておく必要があります。

依存関係の例 2: フォームを移行する場合の依存関係

- フォームは、業務カテゴリに所属している為、業務カテゴリはフォーム移行前に移行先へ設定しておく必要があります。
- フォームにマスタ参照コンポーネントが設定されている場合、該当のマスタ参照コンポーネントはフォーム移行前に移行先へ設定しておく必要があります。

2.2. 制限事項

選択移行を行う際には、以下の制限事項があります。

・データベース種類の一致

データベース種類が異なる場合は移行できません。
例）
Oracle Database→MySQL
MySQL→Oracle Database

データベースバージョンが異なる場合は移行できます。
例）
Oracle Database10g R2→Oracle Database 11g R2

・AgileWorks マイナーバージョンの一致

AgileWorks マイナーバージョンが異なる場合は移行できません。
例）
AgileWorks R2.2.0→AgileWorks R2.3.0

リビジョンが異なる場合は移行できます。
例）
AgileWorks R2.2.0→AgileWorks R2.2.1

・移行可能な外部マスタ(拡張)のテーブルタイプ

テーブルタイプが「TABLE」の外部マスタ(拡張)は移行できますが、
「VIEW」の外部マスタ(拡張)は移行できません。

「VIEW」の外部マスタ(拡張)は、従来通り手動で移行を行う必要があります。

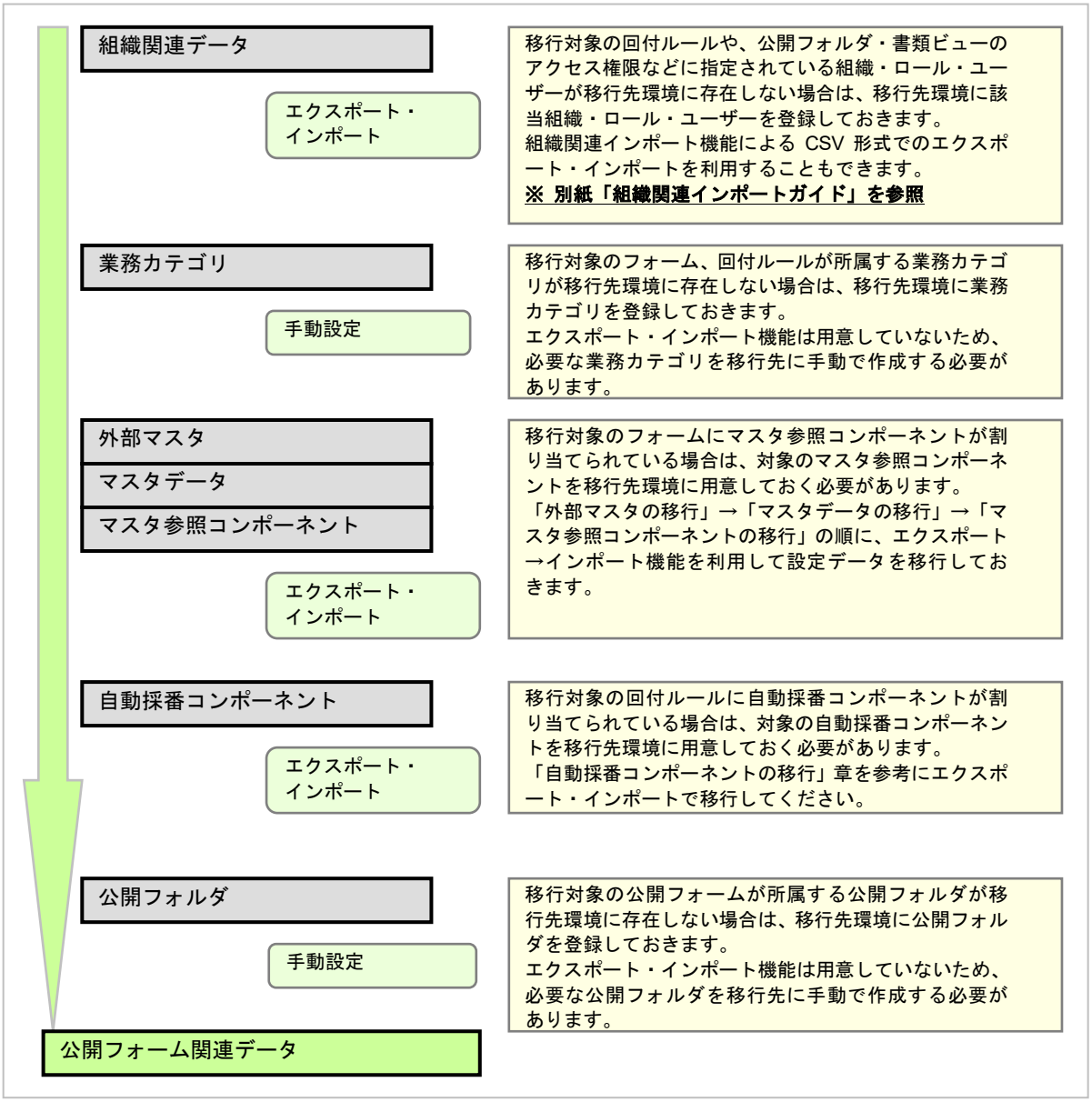
・移行可能な外部マスタの定義

外部マスタ(拡張)の定義については、画面から設定できる項目のみ移行可能です。
・主キー設定
・Not Null 制約設定
・ユニーク制約設定
・インデックス設定
データベース上で DDL 等を利用して独自に設定した定義（複合インデックス、外部キー、等）は移行されません。
その為、移行後にあらためて手動で設定を行う必要があります。

2.3. フォーム・回付ルール選択移行の流れ

フォームや回付ルールを段階リリースする場合、「公開フォーム関連データの移行」機能を利用することで、リリース対象の公開フォーム（フォーム + 回付ルール）を選択して移行することができます。
但し、「公開フォーム関連データの移行」機能では、選択した公開フォームに関わるフォーム・関連フォーム設定・書類ビュー設定・PDF 設定・回付ルールのみが移行対象となり、対象フォーム・回付ルール設定に依存する組織・業務カテゴリ・マスタ参照コンポーネント・自動採番コンポーネントなどは移行対象となりません。
そのため、「公開フォーム関連データ」のエクスポート・インポート機能を利用する前に、以下の図で示す設定データを事前に移行先で準備しておく必要があります。

▼ 公開フォーム関連データ移行までの流れ



※ 上図にて「エクスポート・インポート」と記載されている設定データについては、エクスポート・インポート機能が用意されている設定データです。

2.4. 外部マスタ(標準)の移行

外部マスタ(標準)は以下の 2 つのデータを移行(エクスポート、インポート)することが可能です。
エクスポート・インポートの手順は、別紙「Aw12-外部マスタ(標準)ガイド」を参照ください。

▼外部マスタ(標準)の移行データ

機能	説明
定義 XML	対象の外部マスタ(標準)のマスタデータ定義を示す XML 形式の移行用ファイルです。
データ CSV	対象の外部マスタ(標準)のデーター覧 CSV ファイルです。

2.5. 外部マスタ(拡張)の移行

外部マスタ(拡張)のエクスポート・インポート

外部マスタ(拡張)は以下の 2 つのデータを移行(エクスポート、インポート)することが可能です。
エクスポート・インポートの手順は、別紙「Aw12-外部マスタ(拡張)ガイド」を参照ください。

▼外部マスタ(拡張)の移行データ

機能	説明
テーブル定義 XML	テーブル定義を示す XML 形式の移行用ファイルです。 usrmst_＜テーブル名＞.xml というファイル名でエクスポートされます。
データ CSV	テーブル内のデーター覧 CSV ファイルです。 ＜テーブル名＞.csv というファイル名でエクスポートされます。 ・1 行目はヘッダ行としてテーブルのカラム名を指定 ・2 行目以降はデータ行 となります。

外部マスタ(拡張)を利用しているマスタデータの確認

外部マスタ(拡張)は、マスタデータとしてメタ定義を登録することでマスタ参照コンポーネントから参照設定できるようになります。
移行対象の外部マスタ(拡張)が、どのマスタデータとしてメタ定義されているか確認するには、対象マスタを選択した状態でメニューバー[編集] – [利用マスタデータ]タブから確認します。



画面上に表示されている業務カテゴリ内のマスタデータについても、忘れずに移行先環境へ用意する必要があります。
マスタデータの移行については、次章を確認してください。

2.6. マスタデータの移行

マスタデータとは、マスタのデータ定義（カラム定義）を表すメタ定義情報です。
マスタデータは、マスタ参照コンポーネントで使用するデータソースとなるため、マスタ参照コンポーネントを設定する前に定義しておく必要があります。

マスタデータのエクスポート

▼ 管理サイト[フォーム管理] – [マスタデータ設定]
移行元環境から、マスタデータ定義をエクスポートするには、対象マスタデータを選択した状態で、メニューバー[エクスポート]を選択します。

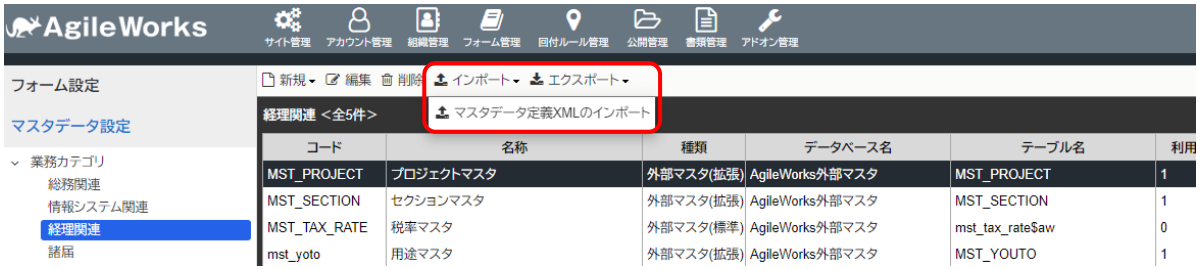


▼マスタデータの移行データ

機能	説明
マスタデータ定義 XML	マスタデータ定義を示す XML 形式の移行用ファイルです。 mstdata_＜マスタデータのコード＞.xml というファイル名でエクスポートされます。

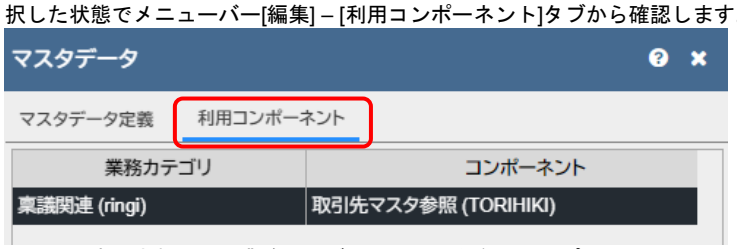
マスタデータのインポート

エクスポートしたデータを、移行先環境へインポートするには、移行先環境の管理サイト管理サイト[フォーム管理] – [マスタデータ設定]画面から、対象業務カテゴリを選択した状態で、メニューバー[インポート]を選択します。



利用コンポーネントの確認

移行対象のマスタデータが、どのマスタ参照コンポーネントから利用されているか確認するには、対象マスタデータを選択した状態でメニューバー[編集] – [利用コンポーネント]タブから確認します。



画面上に表示されている業務カテゴリ内のマスタ参照コンポーネントについても、忘れずに移行先環境へ用意する必要があります。
マスタ参照コンポーネントの移行については、次章を確認してください。

2.7. マスタ参照コンポーネントの移行

マスタ参照コンポーネントのエクスポート

▼ 管理サイト[フォーム管理] – [コンポーネント設定] – [マスタ参照コンポーネント]ノード
移行元環境から、マスタ参照コンポーネントをエクスポートするには、対象マスタ参照コンポーネントを選択した状態で、メニューバー[エクスポート]を選択します。



▼マスタ参照コンポーネントの移行データ

機能	説明
コンポーネント定義 XML	マスタ参照コンポーネント定義を示す XML 形式の移行用ファイルです。 mstcom_＜マスタ参照コンポーネントのコード＞.xml というファイル名でエクスポートされます。

マスタ参照コンポーネントのインポート

エクスポートしたデータを、移行先環境へインポートするには、移行先環境の管理サイト[フォーム管理] – [コンポーネント設定] – [マスタ参照コンポーネント]ノード内の対象業務カテゴリを選択した状態で、メニューバー[インポート]を選択します。



利用フォーム・フィールドの確認

移行対象のマスタ参照コンポーネントが、どのフォームのどのフィールドから利用されているか確認するには、対象マスタ参照コンポーネントを選択した状態でメニューバー[編集] – [利用フォーム]タブから確認します。



画面上に表示されている業務カテゴリ内のフォーム上のフィールドから参照されているため、移行後に移行先環境からマスタ参照ウィンドウの動作確認を行い、マスタ参照コンポーネントが正しく表示されるかの確認を行ってください。

2.8.　自動採番コンポーネントの移行

自動採番コンポーネントのエクスポート

▼ 管理サイト[フォーム管理] – [コンポーネント設定] – [自動採番コンポーネント]ノード
移行元環境から、自動採番コンポーネントをエクスポートするには、対象自動採番コンポーネントを選択した状態で、メニューバー[エクスポート]を選択します。



▼自動採番コンポーネントの移行データ

機能	説明
コンポーネント定義 XML	自動採番コンポーネント定義を示す XML 形式の移行用ファイルです。 numcom_＜自動採番コンポーネントのコード＞.xml というファイル名でエクスポートされます。

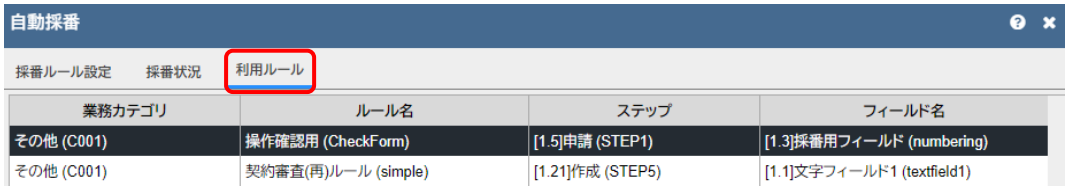
自動採番コンポーネントのインポート

エクスポートしたデータを、移行先環境へインポートするには、移行先環境の管理サイト[フォーム管理] – [コンポーネント設定] – [自動採番コンポーネント]ノード内の対象業務カテゴリを選択した状態で、メニューバー[インポート]を選択します。



利用ルール・ステップの確認

移行対象の自動採番コンポーネントが、どの回付ルールのどのステップで指定されているか確認するには、対象自動採番コンポーネントを選択した状態でメニューバー[編集] – [利用ルール]タブから確認します。



画面上に表示されている業務カテゴリ内の回付ルール上のステップから参照されています。
回付ルールの移行まで行った後に移行先環境から FlowEditor を開き、対象ステップで自動採番コンポーネントが正しく割り当たっていることを確認してください。

2.9. 公開フォーム関連データの移行

公開フォーム関連データの移行は、管理サイト[公開管理] – [公開フォルダ設定]画面から、移行元環境でエクスポート→移行先環境でインポートを行います。

公開フォーム関連データの移行対象

対象	説明
フォーム	選択した公開フォームのアップロードされたフォームの Zip ファイル
関連フォーム設定	選択した公開フォームで設定されている関連フォーム設定
書類ビュー設定	選択した公開フォームで設定されている書類ビュー設定
PDF 設定	選択した公開フォームで設定されている PDF 設定
回付ルール	選択した公開フォームの回付ルール設定

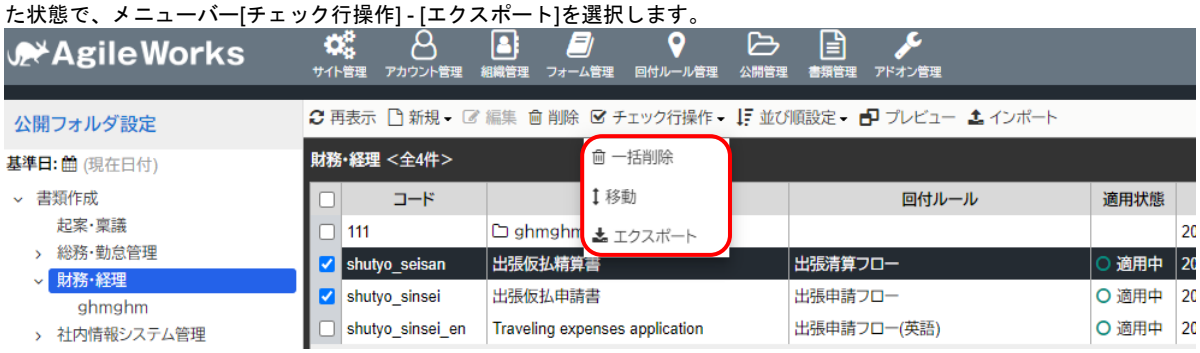
対象のフォーム・回付ルールだけでなく、対象フォームに設定されている「関連フォーム設定」「書類ビュー設定」「PDF 設定」も移行対象となります。

▼ 対象フォームに付随する関連設定も移行対象となります。

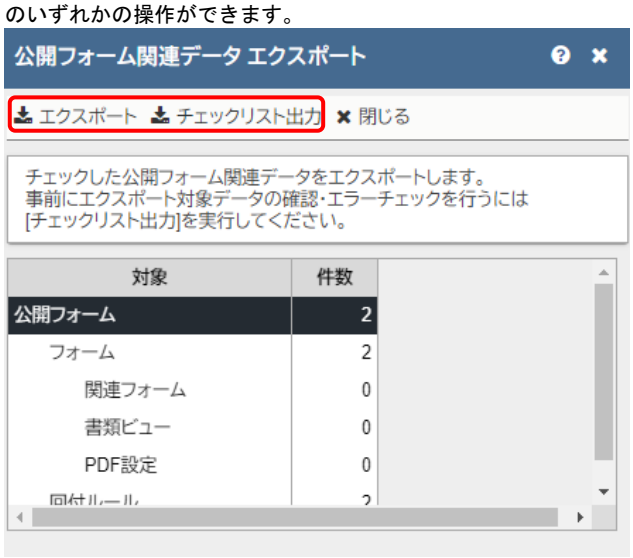


公開フォーム関連データのエクスポート

▼ 管理サイト[公開管理] – [公開フォルダ設定]
移行元環境から、公開フォーム関連データをエクスポートするには、公開フォルダ内の移行対象の公開フォームを選択した状態で、メニューバー[チェック行操作] - [エクスポート]を選択します。



エクスポート対象の件数画面が表示されます。
確認画面から、
・エクスポート
・チェックリストの出力
のいずれかの操作ができます。



> **重要**
> 公開フォーム関連データのエクスポートを実行する前に、必ずチェックリストを出力して、エクスポート対象オブジェクトの確認やエラー有無の確認を行ってください。チェックリストとして出力されたファイル内に errors.csv が存在する場合は、エクスポート対象データに何らかのエラーや設定上の不整合が存在しますので、エラー内容を修正して改めてエクスポートを実行してください。

■ チェックリスト
チェックリストを実行すると、zip ファイルがエクスポートされます。
Zip ファイル内には以下のファイルが含まれています。

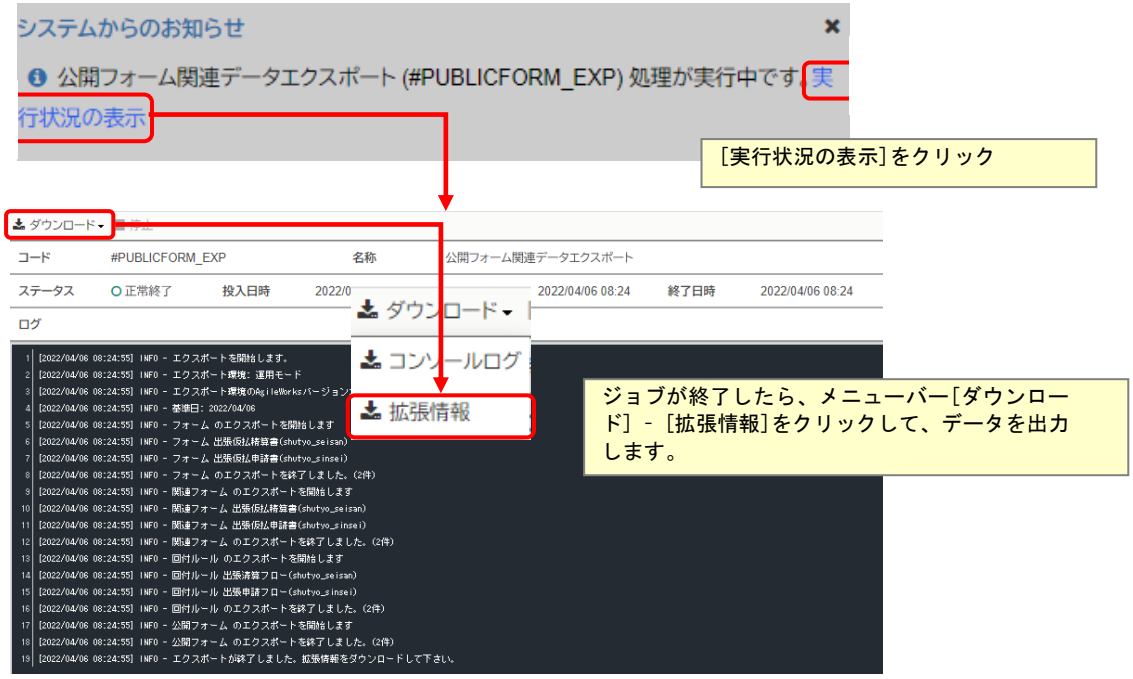
ファイル / フォルダ	説明
console.log	チェックリスト出力時のコンソールログ
[report_export] フォルダ	チェックリスト結果の出力フォルダ
detail.csv	エクスポート対象オブジェクトの一覧を出力したファイル 対象データの詳細を確認できます。
summary.csv	エクスポート対象オブジェクトの件数を出力したファイル
errors.csv	何らかのエラーや不整合が見つかった場合のみ出力されるエラーログ エラーが見つかった場合には、対象エラーを修正した上で改めてチェックリスト出力によるエラー有無確認→公開フォーム関連データのエクスポートを実行してください。

ログ・ファイル内の項目説明については、「ログ・ファイルフォーマット」章を確認してください。

■ 公開フォーム関連データのエクスポート

公開フォーム関連データのエクスポートを実行すると､バックグラウンドの非同期ジョブでエクスポート処理が実行されます。処理はジョブマネージャ側で実行されるため、実行結果の確認やエクスポートデータのダウンロードは、ジョブの実行状況・結果画面から行います。

公開フォーム関連データのエクスポートを実行すると、画面右下にダイアログが表示されます。



拡張情報は、
PUBLICFORM_EXP_yyyyMMdd_hhmm.zip
というファイル名の Zip となっています。Zip ファイルを展開すると以下のファイルが含まれています。

▼ 拡張情報のファイル

ファイル / フォルダ	説明
[data] フォルダ	移行対象の実データ ※ ファイル仕様は非公開
[report_export] フォルダ	エクスポート結果のログ出力フォルダ ※ チェックリストで出力した内容と同じです。 前ページの説明を参照してください。
detail.csv	
summary.csv	
errors.csv	

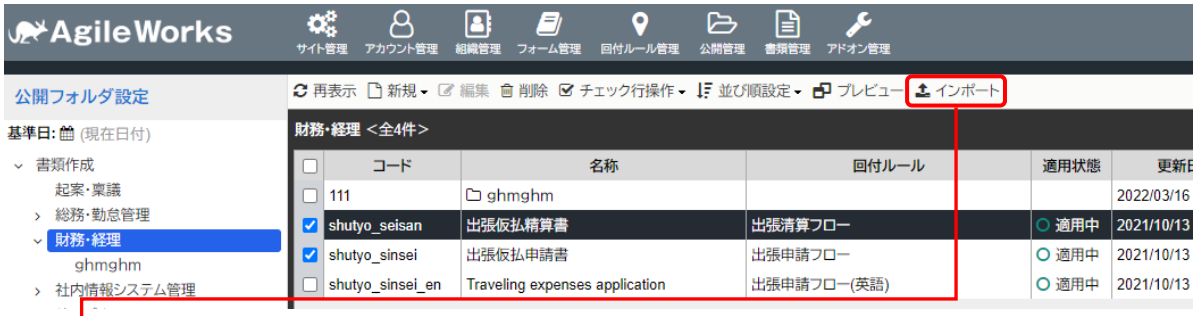
ログ・ファイル内の項目説明については、「ログ・ファイルフォーマット」章を確認してください。

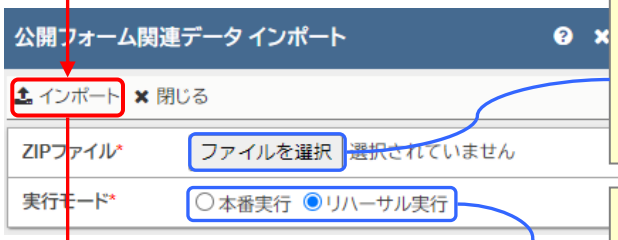
エラーがなければ、PUBLICFORM_EXP_yyyyMMdd_hhmm.zip を移行先環境にインポートします。

公開フォーム関連データのインポート

エクスポートしたデータを、移行先環境へインポートするには、移行先環境の管理サイト[公開管理] – [公開フォルダ設定]から、メニューバー[インポート]を選択します。
インポート時には、あらかじめインポートしたい対象の公開フォルダに移動した上でインポートを実行します。

インポート処理は、本番実行 / リハーサル実行ともにバックグラウンドの非同期ジョブで実行されます。処理はジョブマネージャ側で実行されるため、実行結果の確認やログのダウンロードは、ジョブの実行状況・結果画面から行います。

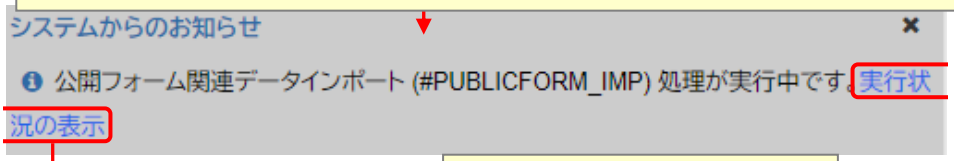




■ **インポートファイルの参照**
インポートする Zip ファイルを指定します。
移行元環境からエクスポートした
PUBLICFORM_EXP_yyyyMMdd_hhmm.zip
を指定してください。

■ **実行モードの選択**
「本番実行」か「リハーサル実行」か選択します。
リハーサル実行とは、Zip ファイルを読み込んで、入力チェックだけを行なうモードです。入力チェック結果をログ出力し、データ書込は行ないません。

公開フォーム関連データのインポートを実行すると、画面右下にダイアログが表示されます。



[実行状況の表示]をクリック



ジョブが終了したら、メニューバー[ダウンロード] - [拡張情報]をクリックして、データを出力します。

■ **実行結果の確認**

拡張情報は、
PUBLICFORM_IMP_yyyyMMdd_hhmm.zip
というファイル名の Zip となっています。Zip ファイルを展開すると以下のファイルが含まれています。

▼ 拡張情報のファイル

ファイル / フォルダ	説明
[data] フォルダ	移行対象のエクスポートデータ ※ エクスポート時に出力した内容と同じです。 ここでは確認する必要はありません。
[report_import] フォルダ	インポート結果のログ出力フォルダ
detail.csv	インポート対象データの件数サマリログ
summary.csv	インポート対象データー覧ログ
untreated.csv	今回のインポートで更新対象外のデーター覧
errors.csv	何らかのエラーや不整合が見つかった場合のみ出力されるエラーログ

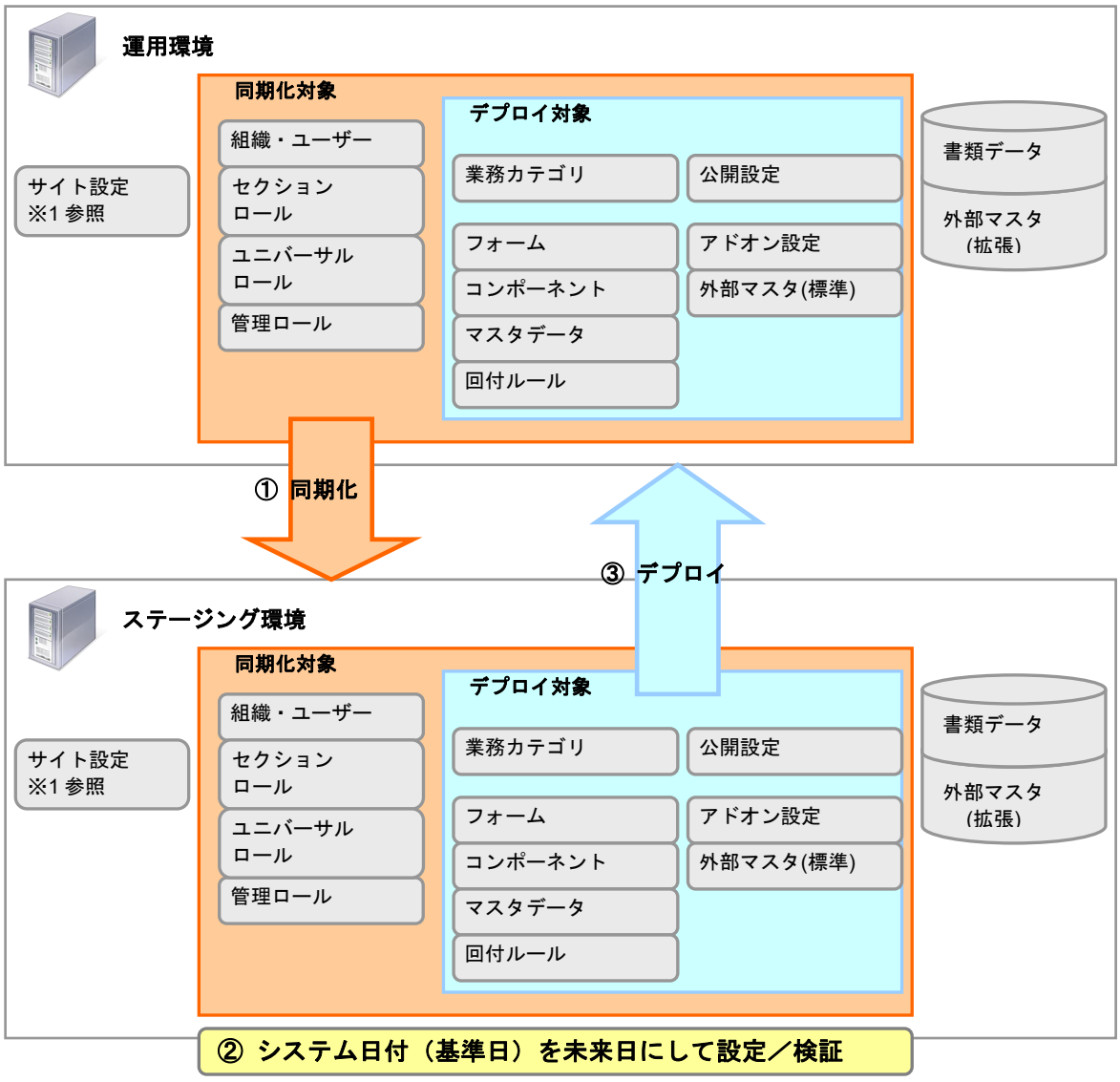
ログ・ファイル内の項目説明については、「ログ・ファイルフォーマット」章を確認してください。

3. ステージング機能による一括移行方法

本章では、ステージング機能を利用した一括移行方法について説明します。

3.1. ステージング機能の概要

AgileWorks ステージング機能の概要について説明します。
① 同期化（運用環境のマスタをステージング環境へ移行）
② ステージング環境での設定・検証
③ デプロイ（ステージング環境のマスタを運用環境へ移行）



（※1）
「サイト管理」の設定情報は、
・ 「業務カテゴリ」はデプロイ／同期化の対象データです。
・ 組織・フォーム設定に関係する「ユーザー拡張項目」「組織拡張項目」「件名項目」「共通一覧ビュー」は同期化対象データですが、デプロイは対象外となります。

移行対象データの説明は後章「移行対象一覧」を参照してください。

3.2. ステージング機能の用語説明

ステージング機能で登場する用語について説明します。

用語	説明
運用環境	AgileWorks の本番環境・運用環境を本書では「運用環境」と呼称します。
ステージング環境	「ステージング」とは”準備環境”を表す用語です。 ワークフロー運用を稼動させる前に、実環境に近い状況で評価・確認し、運用環境でのトラブルや設定ミスを未然防止する為の準備環境を表します。
テスト環境	結合テストや実験環境を表します。 本書では明示的にステージング環境とテスト環境の用語を分けています。
デプロイ	ステージング環境のマスタデータを、運用環境へ移行する機能を本書では「デプロイ」と呼称します。
同期化	運用環境のマスタデータを、ステージング環境へ同期する機能を本書では「同期化」と呼称します。

3.3. ステージング環境の構築

ライセンス

AgileWorks をステージングサーバーとして稼動させるには、ステージングライセンスが必要です。
ステージング機能（同期化・デプロイ）を使わないテスト環境として利用する際にも、ライセンスとしてはステージングライセンスを用意して頂く必要があります。

インストール後の起動モード切替方法

R2.5.0 より、インストール後の起動モード切替方法が変更されました。

AgileWorks の起動モードは適用されているライセンスによって自動で判別されます。
ユーザー用ガイドの作成や運用モードでのテスト・動作検証が必要の場合には、一定期間用のタームライセンスと言う考え方がございますので、弊社販売パートナーまで御相談下さいますようお願い申しあげます。

ライセンスは【管理サイト】→【サイト管理】→【サイト共通設定】→【サイト情報】より適用できます。

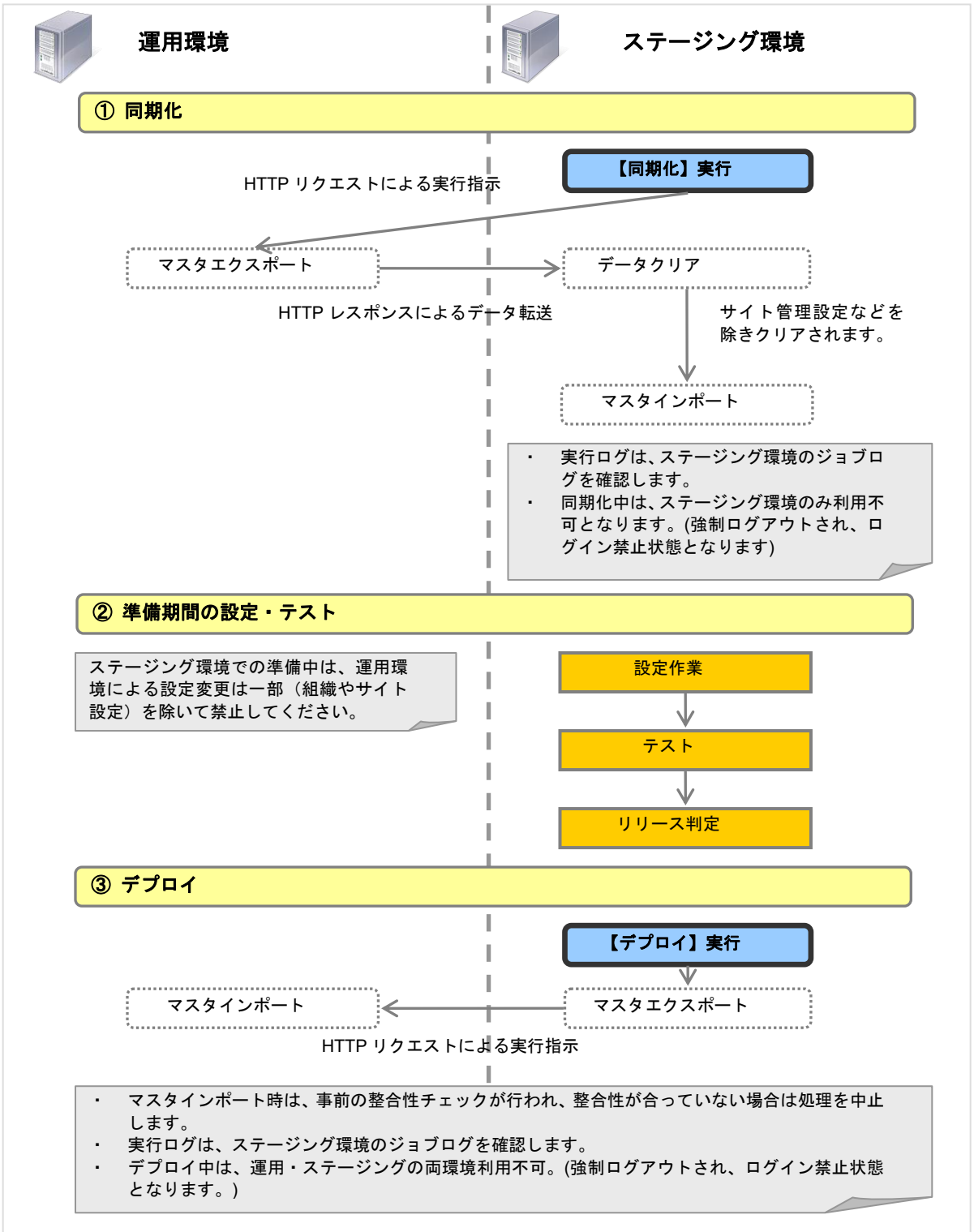
3.4. 移行の流れ

▼ 図の注釈

・・・ 機能

・・・ 内部処理

・・・ 管理者によって行うタスク



3.5. 移行対象一覧

記号の意味
〇　　：　移行対象
-　　：　移行対象外
クリア　：　データがクリアされます。

デプロイ欄の記号の意味
ステージングから運用へデプロイする際の引当方式を A/B の記号で示しています。
A　：「コード」で引当判定し、新規・更新いずれかを行います。（削除はされません）
B　：DELETE→INSERT（運用環境の全設定削除後、ステージングの設定に置き換え）

▼ 管理サイトの設定

管理メニュー	設定	同期化	デプロイ	準備中の変更
サイト管理	業務カテゴリ	〇	〇【A】	禁止(※4)
	組織・フォーム設定に関係するサイト設定（※1） ・ユーザー拡張項目 ・組織拡張項目 ・件名項目 ・共通一覧ビュー	〇	-	禁止(※4)
	業務カテゴリ、フォーム設定に関係するサイト設定以外	-	-	〇
ｱｶｳﾝﾄ管理 組織管理	組織 ユーザー 組織所属ユーザー セクションロール ユニバーサルロール ユニバーサルロール所属ユーザー 管理ロール	〇（※2）	-（※3）	〇
フォーム管理	フォーム（アップロードした ZIP、フォーム設定）	〇	〇【A】	禁止(※4)
	関連フォーム設定	〇	〇【B】	禁止(※4)
	書類ビュー設定	〇		禁止(※4)
	PDF 設定	〇		禁止(※4)
	自動採番コンポーネント	〇	〇【A】	禁止(※4)
	マスタ参照コンポーネント	〇	〇【A】	禁止(※4)
	マスタデータ設定	〇	〇【A】	禁止(※4)
回付ルール管理	回付ルール設定	〇	〇【A】	禁止(※4)
公開管理	公開設定(公開フォルダ)	〇	〇【B】	禁止(※4)
公開管理	公開設定(公開フォーム)	〇	〇【B】	禁止(※4)
	公開検索条件設定	〇	〇【B】	禁止(※4)
アドオン管理	Bricklet 設定	〇	〇【A】	禁止(※4)
	ASB 設定	〇	〇【B】	禁止(※4)

▼ 外部マスタ(拡張)領域
外部マスタ(拡張)領域のテーブル定義・データは、同期化/デプロイ対象外です。手動で同期を取ってください。

▼ 書類データ
・デプロイ時には、書類データはデプロイ対象外です。
・同期化時には、ステージング環境側の書類データはクリアされます。
　採番コンポーネントの採番値も 0(ゼロ)にクリアされます。
　ただし、書類 ID はクリアされません。同期化前の書類の書類 ID の値＋1 から開始されます。

▼同期化時のユーザー情報 - メールアドレス
　同期化時には、ステージング環境側のユーザー情報 - メールアドレスは全てクリアされます。

（※1）
組織・フォーム設定に関係する「ユーザー拡張項目」「組織拡張項目」「件名項目」「共通一覧ビュー」は同期化対象データですが、デプロイは対象外となります。

（※2）
ステージング環境の Administrator パスワードは同期化対象外です。
（同期化前にステージング環境で設定していた Administrator のパスワードは、同期化後もそのまま維持され、運用環境の Administrator パスワードに置き換わることはありません。）
Administrator 以外のユーザーパスワードは、同期化すると運用環境のパスワードに変更されます。
この点に関する注意事項は後章「同期化」→「ユーザーのパスワード変更」を参照してください。

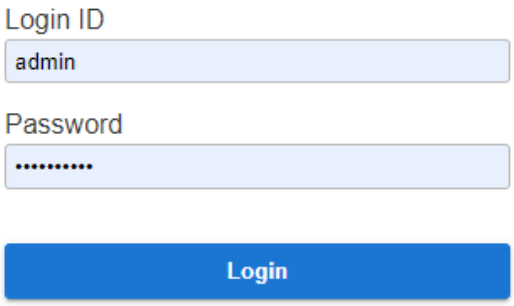
（※3）
組織関連マスタは、デプロイ時は移行対象外となります。（同期化時は移行対象です。）
人事システム等から日次でデータ取込する運用形態の場合は、運用・ステージング両環境に日次取込を行うことで、両環境の組織関連マスタを同期することができます。

（※4）
ステージング環境を同期化し、運用環境へデプロイするまでの準備期間は、一部の設定を除き、運用環境でのマスタ変更作業は行わないでください。（整合性を合わせるため）

3.6. 運用環境との相違点

画面の違い

▼ ログイン画面
ユーザーサイト、管理サイトともに、ログイン画面イメージが異なります。



▼ ログイン後の画面
ユーザーサイト、管理サイトともに、ログイン後のヘッダーイメージが異なります。



機能の違い

ステージング環境では、運用環境の AgileWorks と異なり、管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ステージング】の【連絡先運用環境】と【ステージング環境】画面が現れます。





機能	説明
連携先運用環境の URL	同期対象となる運用環境の URL を設定します。
同期化	同期化を行うと、ステージング環境の全データを一度クリアした上で、運用環境のマスタデータと同期化します。
デプロイ	ステージング環境で設定したマスタデータを、運用環境へ移行します。
システム環境	ステージング環境では、移行予定日を「基準日」として設定することで、未来日付でのマスタ設定、ユーザーサイトからの動作確認ができます。 また、ユーザーサイトへのログイン時にパスワードを不要とすることができます。

3.7. ステージング環境で初めに行うこと

ステージング環境の管理サイトから「連携先運用環境の URL」「基準日」設定を行います。
「基準日」とは組織関連マスタ/フォーム/回付ルールの基準日を示しており、移行予定日となる日付を指定します。
「基準日」を指定することで、移行予定日時点でのマスタ設定（組織管理、フォーム管理、回付ルール管理）や、移行予定日時点でのユーザーサイト動作確認ができます。

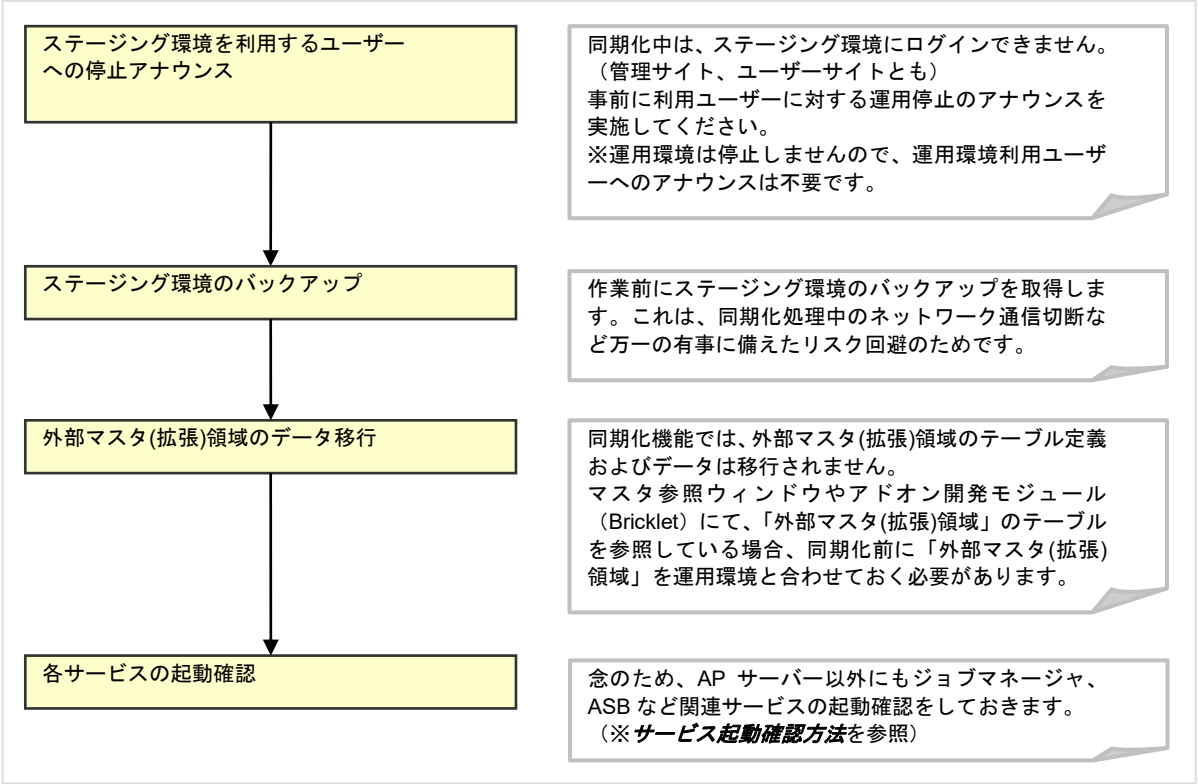
▼ ステージング環境の管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ステージング環境】



3.8. 同期化

運用環境のマスタをステージング環境へ移行します。

同期化前に行うこと



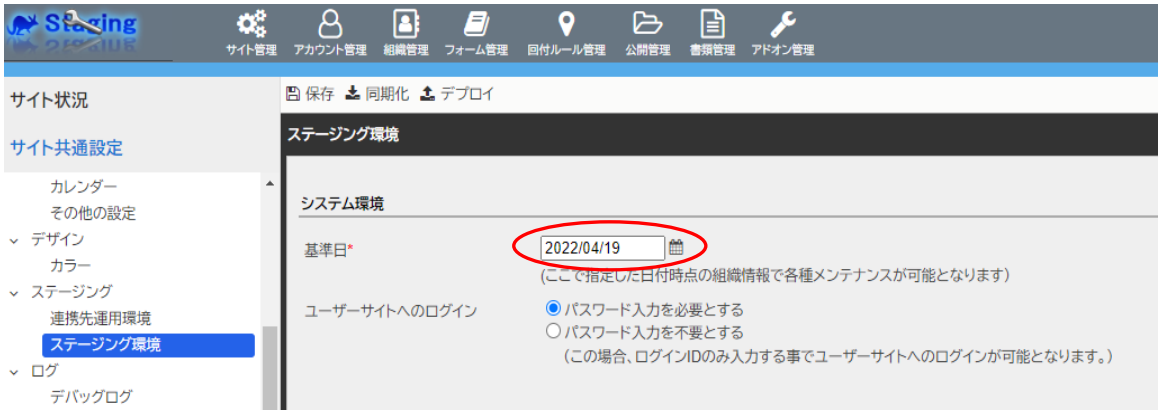
※ 各サービスの起動確認方法

運用環境、ステージング環境の AP、ジョブマネージャ、メールサービス、ASB がそれぞれ起動し、疎通できる状態になっていることを確認します。

対象サービス	起動・疎通確認方法
AP サーバー	管理サイトへログインできることを確認します。
ジョブマネージャ	管理サイト【サイト状況】→【ジョブ】画面の右上部分「ジョブマネージャ接続状態」が接続中になっていることを確認します。
メールサービス	管理サイト【サイト共通設定】→【送信メールサーバー】画面からテストメールが送信できることを確認します。 ※ 但し、明示的にメール送信を無効にしている場合、この確認は不要です。
ASB	管理サイト【アドオン管理】→【ASB 設定】画面を表示します。エラーメッセージが表示なく画面表示できれば疎通成功です。 ※ 但し、アドオンランタイムオプションを利用しない環境や、明示的に ASB を利用していない環境ではこの確認は不要です。

基準日の設定

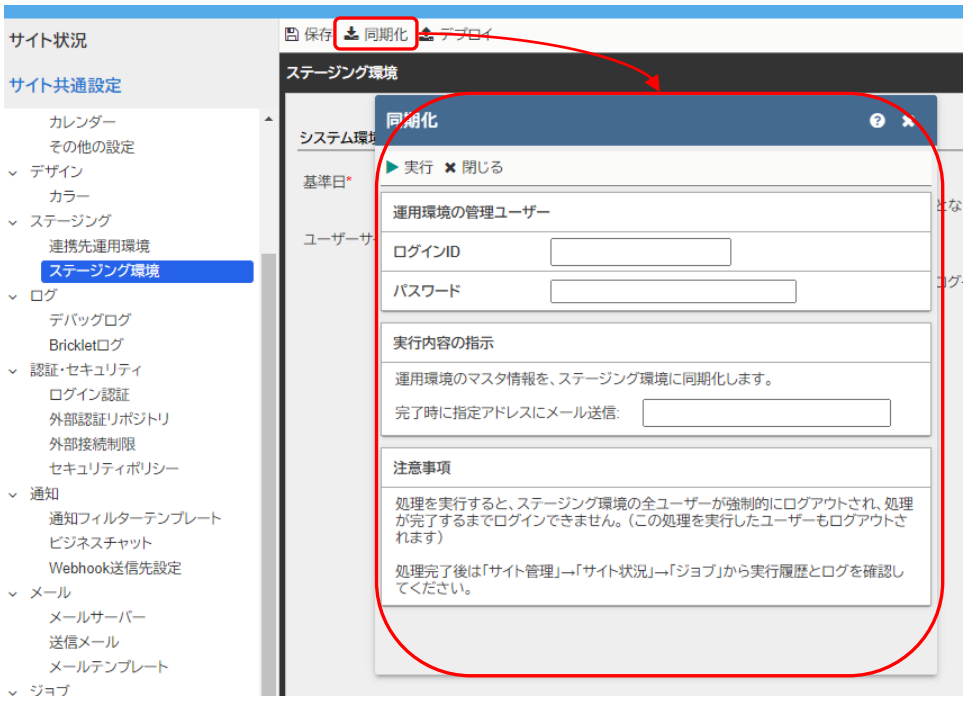
管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ステージング環境】画面から、「基準日」を設定します。
「基準日」には移行予定日となる日付を選択してしてください。
（※ 基準日には過去日付は選択できません）



※ 同期化後、管理サイトの「アカウント管理」「組織管理」「フォーム管理」「回付ルール管理」画面では、ここで指定した基準日時点で有効なデータが表示されるようになります。

同期化の実行

▼ 管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ステージング環境】
・「同期化」をクリック
・「同期化」画面より、運用環境の管理ユーザーログイン情報を入力
（Administrator のログイン ID、パスワードを指定してください）
・【実行】ボタンをクリック



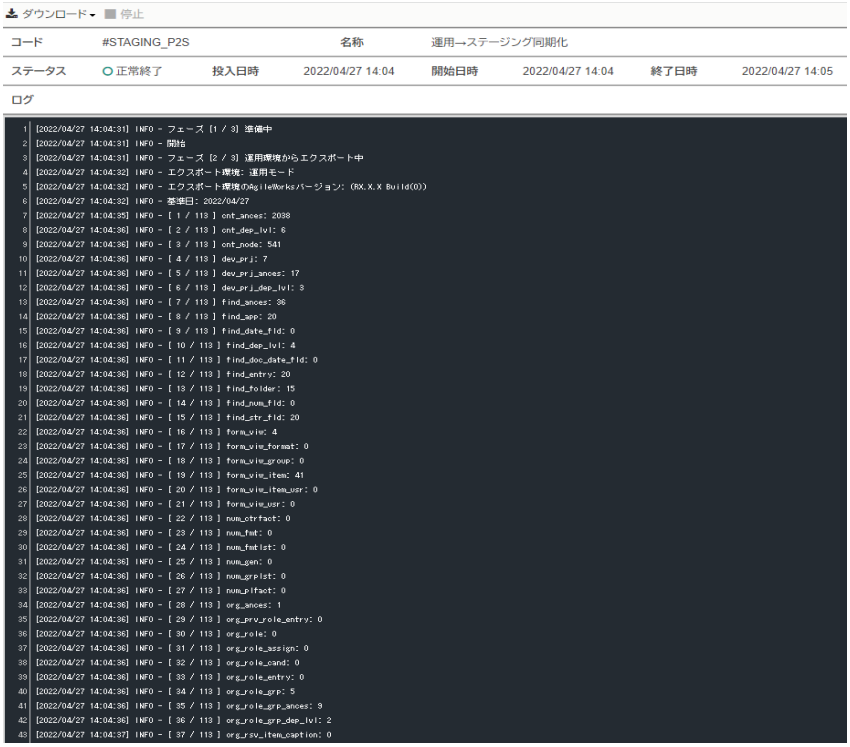
同期化を開始すると、ステージング環境の全ユーザーが強制的にログアウトされ、完了するまでログインできません。
（この処理を実行したユーザーもログアウトされます）

【重要】
同期化の実行中は、運用環境の管理サイト操作を禁止してください。
同期化途中に運用環境で設定変更されると、ステージング環境の管理設定でデータの一貫性が損なわれる恐れがあるだけでなく、その後のデプロイ時に想定しないエラーが発生する場合があります。

同期化実行ログの確認

同期化中はブラウザ上にジョブのコンソールログが表示されます。
ブラウザ上のログ出力を見て、状態を確認することができます。

▼ ジョブ実行ログ



> ヒント
> ジョブ実行ログ画面の URL から他端末からも実行状況を確認できます。
> ジョブ実行ログ画面が表示されたら、URL を保管しておくと便利です。

▼ 正常終了した場合

```
正常終了
```

▼ 異常終了した場合

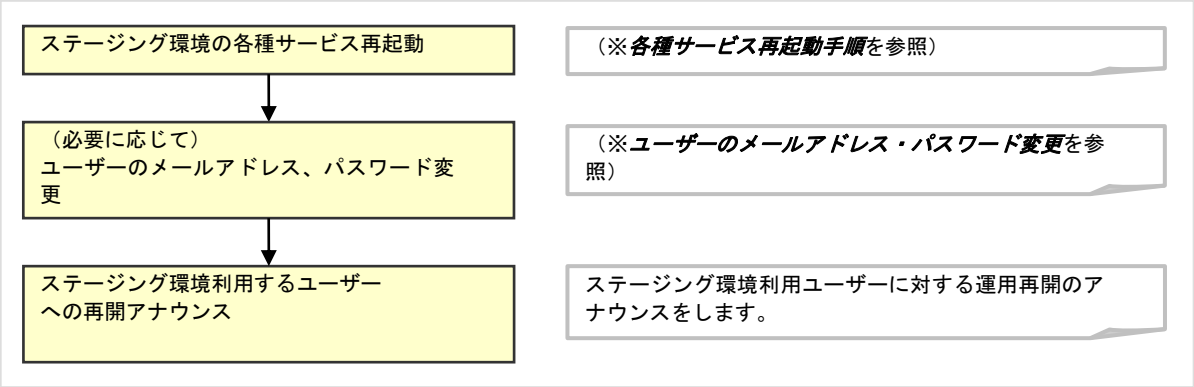
```
異常終了
```

同期化終了後は、ステージング環境の管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】画面からも実行ログや拡張情報を確認することができます。
詳細は後章「同期化/デプロイ後ログの確認」を参照してください。

また、同期化処理は一時的に主要なデータを削除するため、同期化処理が途中で止まった場合、AgileWorks にログイン出来なくなる場合があります。（同期化処理中に AgileWorks が停止するなど）
その場合は、同期化前に取得したバックアップからステージング環境の復旧を行ってください。
バックアップからの復旧手順は「Awl08-バックアップ&リストア」参照

同期化後に行うこと

下図では同期化終了後に最低限実施する作業フローを示しています。



※ 各種サービス再起動手順

同期化終了後、ステージング環境の下記サービスを再起動（停止→起動）します。
（起動順序は下記の表記順序となります。DB サーバーの再起動は必要ありません。）

- AP サーバー（Tomcat または OracleAS）
- 外部ジョブマネージャ（※1）
- 外部メールサービス（※2）
- ASB（※3）

（※1）外部ジョブマネージャ
AP 同梱型ではなく、外部ジョブマネージャとして単独インストールしている場合は、外部ジョブマネージャの再起動が必要です。AP 同梱型の場合は、AP サーバーを再起動するとジョブマネージャも再起動されます。

（※2）外部メールサービス
AP 同梱型ではなく、外部メールサービスとして単独インストールしている場合は、外部メールサービスの再起動が必要です。AP 同梱型の場合は、AP サーバーを再起動するとメールサービスも再起動されます。

（※3）ASB
アドオンランタイムオプションを導入している場合のみ。

> ⚠ 注意事項
> 間違って運用環境の再起動をしないよう注意してください。
> 同期化後の再起動は、ステージング環境のみとなります。

> ⚠ サービス再起動時の注意事項
> Linux 環境において、/etc/init.d のスクリプトから外部ジョブマネージャ、外部メールサービス、ASB を再起動する場合は、restart コマンドは使用せず、stop コマンド実行後、5 秒程度待ってから start コマンドを実行してください。
> 例）外部ジョブマネージャ再起動
> /etc/init.d/aw-job-manager stop
> ・・・stop 後、5 秒程度待つ・・・
> /etc/init.d/ aw-job-manager start

※ ユーザーのメールアドレス・パスワード変更

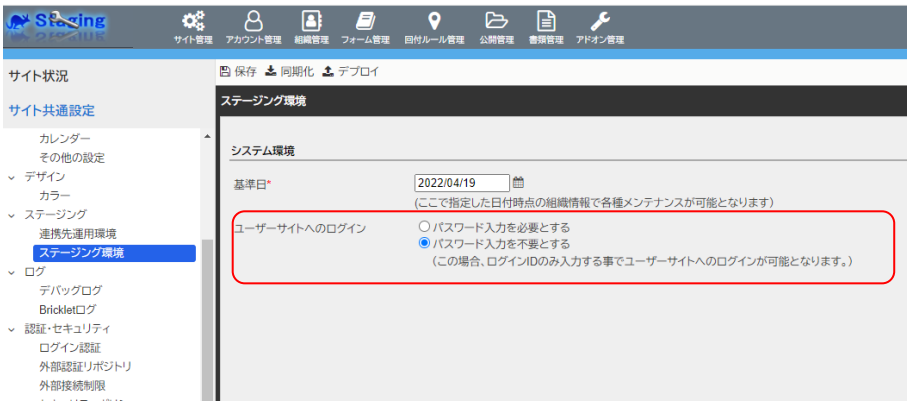
次章「ユーザーのパスワード変更」章を参照してください。

ユーザーのパスワード変更

同期化すると、ステージング環境のユーザーアカウントは「パスワード」も含めて同期化されます。
（但し、Administrator ユーザーのパスワードは同期化されず元の設定が維持されます）
必要に応じて、以下に示す作業を実施してください。

▼ パスワード
通常は、運用環境の各ユーザーパスワードはシステム管理者では把握できません。
ステージング環境のユーザーサイトからワークフロー検証作業を進める場合、ステージング環境の管理サイト【サイト管理】→【ステージング環境】設定から、「ユーザーサイトへのログイン」を”パスワード入力を不要とする”設定にする事で、ステージング環境のユーザーサイトにはログイン ID のみの入力（パスワード入力無し）でログインできるようになります。（下の図を参照ください）

▼ ステージング環境の管理サイト【サイト管理】→【ステージング環境】設定



同期化後の注意点

同期化後にステージング環境でフォームや回付ルールを設定する場合、いくつかの注意点があります。

1. コード変更した場合
   ステージング環境でフォームコードを変更した場合は、デプロイ前に運用環境側のフォームコードも変更する必要があります。
   （デプロイ時は、コードで引当してフォームや関連付く回付ルール設定の移行を行う為）

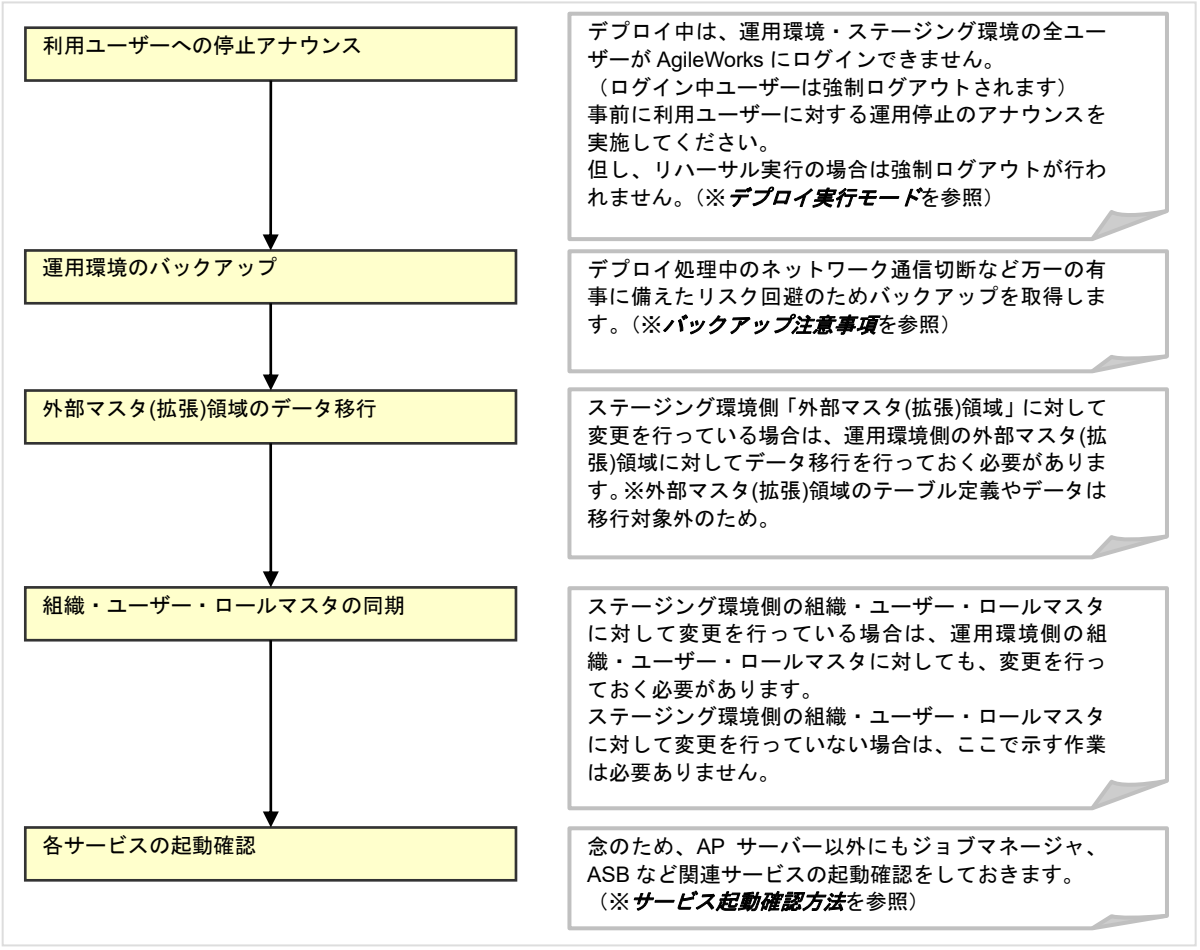
2. 削除した場合
   ステージング環境でフォームや回付ルールを削除しても、デプロイ時に削除情報は移行されず、運用環境に残ったままとなります。「移行対象一覧」章で【A】の記号となっているオブジェクトは、ステージング環境で削除した場合、運用環境側でも削除する必要があります。

3. 削除後に改めて同一コードのフォーム・回付ルールを作成した場合
   例えば、フォームや回付ルールのバージョン番号を若くするなどの目的から、ステージング環境側で一度フォーム、回付ルールを削除し、再度同一コードで作成・設定した場合、デプロイ前に運用環境側でも対象フォーム・回付ルールを削除した状態にしておく必要があります。

3.9. デプロイ

ステージング環境のマスタを運用環境へ移行します。

デプロイ前に行うこと



※ バックアップ注意事項

バックアップは、運用環境の AP サーバー、外部ジョブマネージャ、外部メールサービス、ASB を停止した状態で取得してください。

▼ 停止順序
1) AP サーバー
2) 外部ジョブマネージャ
3) 外部メールサービス
4) ASB

▼ 起動順序
1) ASB
2) 外部メールサービス
3) 外部ジョブマネージャ
4) AP サーバー

外部ジョブマネージャ、外部メールサービスは、AP 同梱型で動かしている場合、AP サーバーを再起動することで再起動されます。
ASB はアドオンランタイムオプションの場合のみ導入されるサービスです。

※ 各サービスの起動確認方法

運用環境、ステージング環境の AP、ジョブマネージャ、メールサービス、ASB がそれぞれ起動し、疎通できる状態になっていることを確認します。

対象サービス	起動・疎通確認方法
AP サーバー	管理サイトへログインできることを確認します。
ジョブマネージャ	管理サイト【サイト状況】→【ジョブ】画面の右上部分「ジョブマネージャ接続状態」が接続中になっていることを確認します。
メールサービス	管理サイト【サイト共通設定】→【送信メールサーバー】画面からテストメールが送信できることを確認します。 ※ 但し、明示的にメール送信を無効にしている場合、この確認は不要です。
ASB	管理サイト【アドオン管理】→【ASB 設定】画面を表示します。エラーメッセージが表示なく画面表示できれば疎通成功です。 ※ 但し、アドオンランタイムオプションを利用しない環境や、明示的に ASB を利用していない環境ではこの確認は不要です。

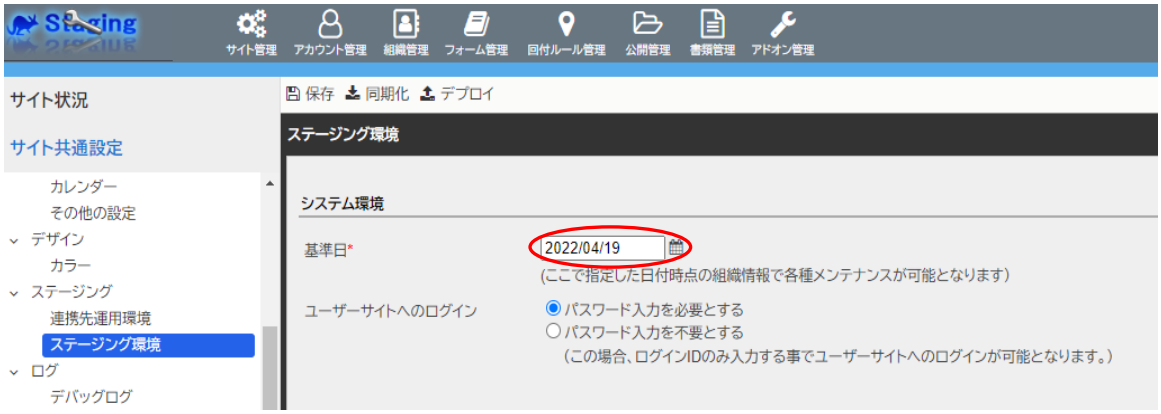
デプロイ実行モード

デプロイの実行時には「リハーサル実行」と「本番実行」2 つの実行モードが選択できます。
それぞれ以下の動作となります。

実行モード	動作
リハーサル実行	デプロイ処理に伴う整合性チェック（指定した運用環境が存在しているか、回付ルールに設定されたユーザーが運用環境に存在するか、等）のみを行い、実際にステージング環境→運用環境へのデータ移行は行わないモード。 リハーサル実行時には運用環境・ステージング環境ともにログインユーザーの強制ログアウトは行われず、AgileWorks の利用が可能です。 本番実行前に移行データの検証を行う為に実施します。 ※チェック結果はジョブ実行ログに出力されます。（***デプロイ実行ログの確認***参照）
本番実行	実際にステージング環境→運用環境へデータ移行を行うモード。 本番実行時には運用環境・ステージング環境ともにログインユーザーの強制ログアウトが行われ、AgileWorks へのログインおよび各機能の利用ができません。 事前に利用ユーザーに対する運用停止のアナウンスを実施してください。 基本的な運用として、リハーサル実行成功後に実施します。

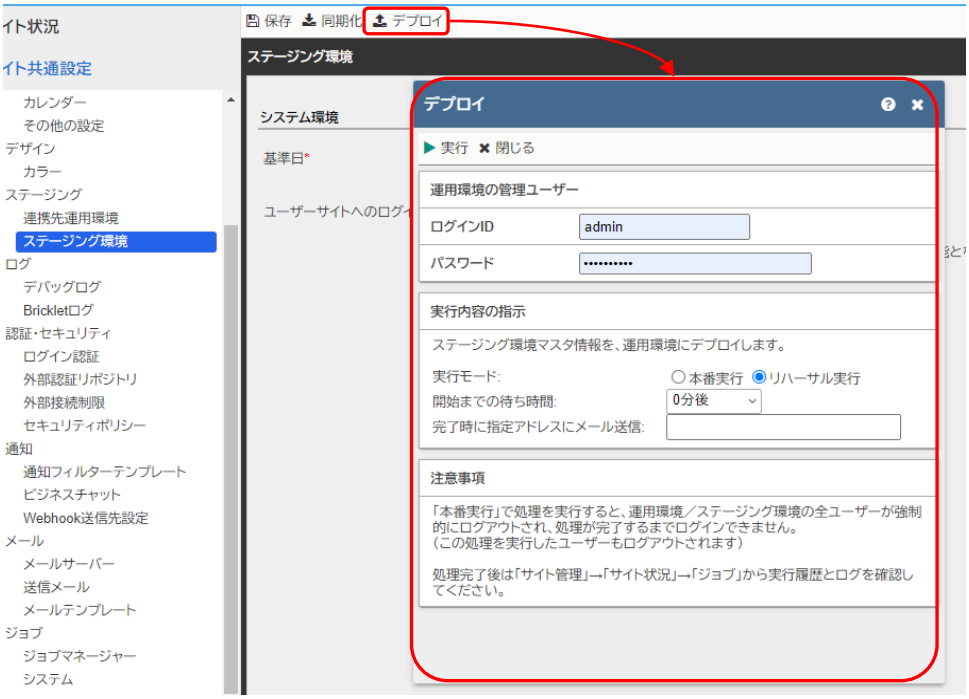
基準日の設定

管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ステージング環境】画面から、「基準日」が設定されているか確認します。「基準日」には移行予定日となる日付を選択してしてください。
（※ 基準日には過去日付は選択できません）



デプロイの実行

▼ 管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ステージング環境】
・「デプロイ」をクリック
・「デプロイ」画面より、運用環境の管理ユーザーログイン情報を入力
（Administrator のログイン ID、パスワードを指定してください）
・即時実行ではなく、実行開始までに待ち時間を設けたい場合は「開始までの待ち時間」を指定
（夜間に実行するケース等で利用します）
・【実行】ボタンをクリック



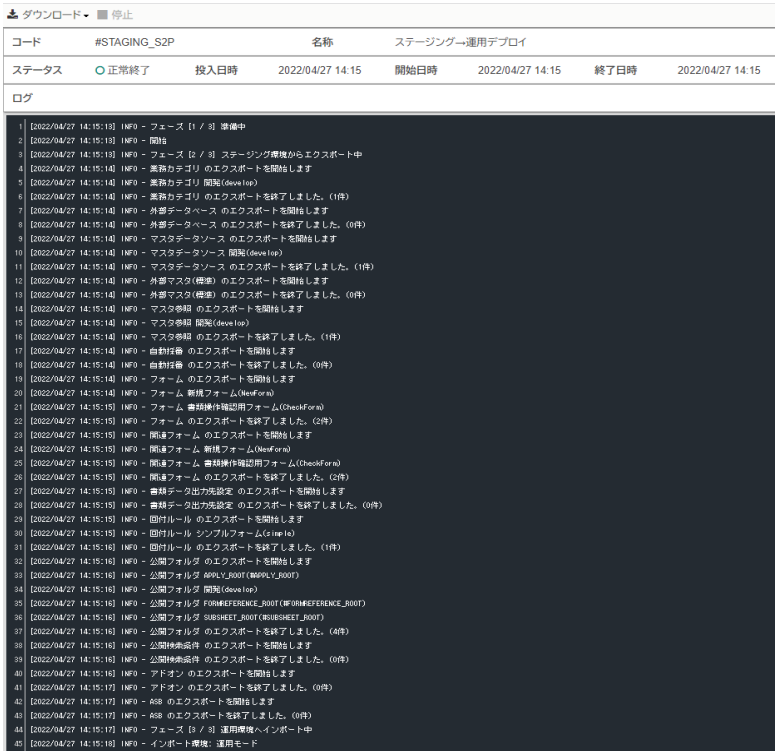
デプロイを行なうと、ステージング環境のマスタ設定を運用環境へ一括インポートします。
「本番実行」の実行モードでデプロイ処理を実行すると、運用環境／ステージング環境の全ユーザーが強制的にログアウトされ、処理が完了するまでログインできません。（この処理を実行したユーザーもログアウトされます）

【重要】
運用上、デプロイが終了しても、動作確認が完了するまではユーザーサイトでの操作を禁止してください。

デプロイ実行ログの確認

デプロイ中はブラウザ上にジョブのコンソールログが表示されます。
ブラウザ上のログ出力を見て、完了状態を確認します。

▼ ジョブ実行ログ



> ヒント
> ジョブ実行ログ画面の URL にアクセスすれば、他端末からも実行状況を確認できますので、上記画面が表示されたら、URL を保管しておくと便利です。

デプロイが終了すると、下記いずれかのログメッセージが表示されます。

▼ 正常終了した場合

```
正常終了
```

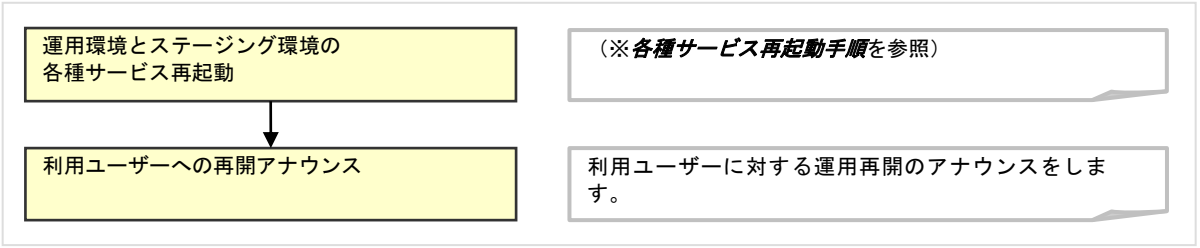
▼ 異常終了した場合

```
異常終了
```

デプロイが終了したら、ステージング環境の管理サイトへログインし、【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】画面から実行ログを確認します。ここではブラウザ上の「ジョブ実行ログ」画面に表示されるコンソールログ以外に拡張情報データをダウンロードすることができます。
詳細は後章「同期化/デプロイ後ログの確認」を参照してください。

デプロイ後に行うこと

下図では同期化終了後に最低限実施する作業フローを示しています。



※ 各種サービス再起動手順

デプロイ終了後、ステージング環境、運用環境の下記サービスを再起動します。
（起動順序は下記の表記順序となります。DB サーバーの再起動は必要ありません。）

- AP サーバー
- 外部ジョブマネージャ（※1）
- 外部メールサービス（※2）
- ASB（※3）

（※1）外部ジョブマネージャ
AP 同梱型ではなく、外部ジョブマネージャとして単独インストールしている場合は、外部ジョブマネージャの再起動が必要です。AP 同梱型の場合は、AP サーバーを再起動するとジョブマネージャも再起動されます。

（※2）外部メールサービス
AP 同梱型ではなく、外部メールサービスとして単独インストールしている場合は、外部メールサービスの再起動が必要です。AP 同梱型の場合は、AP サーバーを再起動するとメールサービスも再起動されます。

（※3）ASB
アドオンランタイムオプションを導入している場合のみ。

> ⚠ 注意事項
> デプロイ後は、運用環境とステージング環境の両環境の再起動をしてください。

> ⚠ サービス再起動時の注意事項
> Linux 環境において、/etc/init.d のスクリプトから外部ジョブマネージャ、外部メールサービス、ASB を再起動する場合は、restart コマンドは使用せず、stop コマンド実行後、5 秒程度待ってから start コマンドを実行してください。
> 例）外部ジョブマネージャ再起動
> /etc/init.d/aw-job-manager stop
> ・・・stop 後、5 秒程度待つ・・・
> /etc/init.d/ aw-job-manager start

3.10. 注意事項

移行動作について

移行動作は対象データの整合性チェックを行った上、一括で行われます。
設定の個別移行や、差分移行はできません。

移行に関する注意

- ステージング→運用、運用→ステージング間のデータ移行は HTTP 通信によるデータ転送が行われます。
  その為、ステージング-運用環境間では HTTP 通信が許可されている必要があります。
- HTTP 通信によるデータ転送の為、回線速度、トラフィック等のネットワーク環境が移行時間に影響する場合があります。
- 同期化中は、整合性確保による排他の為、ステージング環境にログインできません。
- デプロイ本番実行中は、整合性確保による排他の為、運用・ステージング”両”環境にログインできません。デプロイ実施時は、ユーザーサイトの利用停止を事前にアナウンスしてください。

運用に関する注意

- ステージング環境へ同期後、一部データを除き、運用環境のメンテナンスを行うことはデータの整合性上できないので、ステージング環境からの一方向の管理を行ってください。(※サイト設定の中でも移行対象外の設定や、組織関連設定に関しては設定可能です。)
- ステージング機能は大幅な設定変更（年度代わりの組織改編、大幅なフォーム変更や立上げ等）に効果があります。移行動作は全データー括処理となるためデータ変更量にかかわらず処理に時間がかかります。少量の設定変更の場合、ステージング機能は利用せず運用環境を直接変更する、ステージング環境でテストまで実施後し運用環境に手動で設定を行う等の運用方法を取って下さい。

3.11. 同期化／デプロイ実行後ログの確認

同期化、デプロイ後は、ステージング環境の管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【ステージング】画面から実行ログや、「拡張情報」と呼ばれる詳細ログや移行データをダウンロードすることができます。
（デプロイ時のログもステージング環境から確認します。）

▼ ステージング環境の管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【ステージング】



同期化の拡張情報

ファイル名	区分	説明
console.log	保守用ログ	製品保守用に内部実行状態を出力するコンソールログ。

		管理者にて確認する必要はありません。
data/*	移行データ	移行に利用するデータなので、管理者にて確認する必要はありません。
report_export/*	保守用ログ	製品保守用に出力するエクスポートログ 管理者にて確認する必要はありません。
report_import/*	保守用ログ	製品保守用に出力するインポートログ 管理者にて確認する必要はありません。

デプロイの拡張情報

ファイル名	区分	説明
console.log	保守用ログ	製品保守用に内部実行状態を出力するコンソールログ。 管理者にて確認する必要はありません。
data/*	移行データ	移行に利用するデータなので、管理者にて確認する必要はありません。
report_export/summary.csv	確認用ログ	ステージング環境からエクスポートしたデータの件数サマリログ
report_export/detail.csv	確認用ログ	ステージング環境からエクスポートしたデーター覧ログ
report_export/errors.csv	確認用ログ	ステージング環境からエクスポートした際のエラーログ **※エラー発生時のみ出力**
report_import/summary.csv	確認用ログ	運用環境へインポートしたデータの件数サマリログ
report_import/detail.csv	確認用ログ	運用環境へインポートしたデーター覧ログ
report_import/untreated.csv	確認用ログ	運用環境にのみ存在するデーター覧ログ （デプロイ時に何も更新されなかったデータ）
report_import/errors.csv	確認用ログ	運用環境へインポートした際のエラーログ **※エラー発生時のみ出力**

ログ・ファイル内の項目説明については、「ログ・ファイルフォーマット」章を確認してください。

3.12. ステージング機能の FAQ

ステージングから運用、運用からステージングへ差分でデータ移行をしたい

差分によるデータ移行はできません。

AgileWorks の各種設定オブジェクトは、それぞれの設定が密接につながり合っています。
例）フォームと回付ルール、公開フォルダと公開フォーム、フォームとマスタ参照コンポーネント等
整合性を保つため、ステージングでの移行方式は全件による移行としています。

少量の設定変更の場合はステージング機能は利用せず、「選択移行方法」を利用してください。

運用環境とステージング環境の構成は同一である必要がありますか？

一部構成の一致が前提となる項目があります。
詳細はマニュアル「AwS01-サーバー構成ガイド」の「5. ステージングサーバーの構成」章をご参照ください。

3.13. 同期化時のトラブルシューティング

エラーメッセージ例	対応方法
ERROR - 運用環境の認証に失敗しました。[BRKCMN-W0002: ログイン ID またはパスワードに誤りがあります。]	同期化時に指定した運用環境のログイン ID、パスワードが誤っている可能性があります。 また、ユーザーには Administrator を利用してください。
ERROR - インポート事前チェックでエラーを検知したため処理を中止します。	・ステージング環境と運用環境の AgileWorks バージョン番号が同じか確認し、異なる場合はバージョン番号を合わせてください。 ・アドオンランタイムオプション利用時は、ASB の起動を確認してください。

3.14. デプロイ時のトラブルシューティング

エラーメッセージ例	対応方法
ERROR - 運用環境の認証に失敗しました。[BRKCMN-W0002: ログイン ID またはパスワードに誤りがあります。]	デプロイ時に指定した運用環境のログイン ID、パスワードが誤っている可能性があります。 ユーザーには Administrator を利用してください。
ERROR - エクスポート中にエラーが発生しました。ログを確認して下さい。	別章「同期化／デプロイ実行後ログの確認」を参照し、拡張情報内のエラーログを確認します。 （[report_export]ディレクトリ内の errors.csv を参照） ステージング環境側の設定で不整合な状態が見つかった可能性がある為、エラーログを確認し、ステージング環境から不整合な設定を無くした状態で再度デプロイを実行してください。
ERROR - 運用環境でエラーが発生しました。ログを確認して下さい。	別章「同期化／デプロイ実行後ログの確認」を参照し、拡張情報内のエラーログを確認します。 （[report_export]ディレクトリ内の errors.csv を参照） 運用環境へデータ移行する際に、運用環境にインポートできない不整合が見つかった可能性がある為、エラーログを確認し不整合な設定を無くした状態で再度デプロイを実行してください。 例） 回付ルール上のステップで指定されている組織が、運用環境では見つからない。等。

4. ログ・ファイルフォーマット

公開フォーム関連データのエクスポート･インポート機能や、ステージングの同期化･デプロイ機能にて出力されるログ・ファイルの項目について説明します。

4.1. report_export/summary.csv

・　公開フォーム関連データのエクスポート
・　ステージングの同期化実行
の際に出力される件数情報サマリを表示するログ・ファイルです。

列項目	説明
件数	エクスポートされた件数 ※エラー件数は含んでおりません。
新規	*（未使用）*
更新	*（未使用）*
削除	*（未使用）*
エラー件数	エラー件数

4.2. report_import/summary.csv

・　公開フォーム関連データのインポート
・　ステージングのデプロイ実行
の際に出力される件数情報サマリを表示するログ・ファイルです。

列項目	説明
件数	インポートされた件数 ※エラー件数は含んでおりません。
新規	新規登録件数
更新	更新件数
削除	削除件数
エラー件数	エラー件数

4.3. detail.csv

・　公開フォーム関連データのエクスポート・インポート
・　ステージングの同期化・デプロイ実行
の際に出力される対象データー覧を表示するログ・ファイルです。

列項目	説明
処理区分	・エクスポート・同期化時（report_export/detail.csv の場合） 「エクスポート」と固定出力されます。 ・インポート・デプロイ時（report_import/detail.csv の場合） 新規・更新・削除のいずれかが出力されます。
オブジェクト	対象オブジェクト名称（例：フォーム）
オブジェクト内連番	対象オブジェクト単位での連番
親オブジェクト	親オブジェクト名称（例：業務カテゴリ）
親コード	親データのコード
親名称	親データの名称
コード	対象データのコード
名称	対象データの名称
備考	その他、データを特定するための付加情報

4.4. untreated.csv

・　公開フォーム関連データのインポート
・　ステージングのデプロイ実行
の際に出力される今回のインポート・デプロイ処理で更新対象外のデーター覧ログ・ファイルです。

列項目	説明
処理区分	「未処理」と固定出力されます。
オブジェクト	対象オブジェクト名称（例：フォーム）
オブジェクト内連番	対象オブジェクト単位での連番
親オブジェクト	親オブジェクト名称（例：業務カテゴリ）
親コード	親データのコード
親名称	親データの名称
コード	対象データのコード
名称	対象データの名称
備考	その他、データを特定するための付加情報

4.5. errors.csv

・　公開フォーム関連データのエクスポート・インポート
・　ステージングの同期化・デプロイ実行
の際に出力されるエラー一覧を表示するログ・ファイルです。
※ エラーが存在しない場合には出力されません。

列項目	説明
オブジェクト	エラー対象オブジェクト名称（例：フォーム）
コード	エラー対象データのコード
名称	エラー対象データの名称
エラーコード	エラーコード
エラーメッセージ	エラー内容

ヒント
ログを確認しても切分できない問題が発生した場合は、「拡張情報」ファイルを製品サポートセンターまたは販売代理店まで送付してください。
（ステージングの同期化・デプロイ時の「拡張情報」ファイルは、ステージング環境の管理サイト[サイト状況] – [ジョブ]画面からダウンロードできます。）
お問い合わせいただく際には、「質問の趣旨」「実行手順の概要」といった補足情報についてもご連絡頂けると早期解決につながります。